

平成 30 年度 プロジェクト研究費研究実績報告書

平成 31 年 5 月 15 日

代表者 池田 まさみ

研究課題名	子ども向け心理学実験教材の開発とワークショップの実践
研究期間	平成 30 年 6 月 1 日 ~ 平成 31 年 3 月 31 日
共同研究者	(日本基礎心理学会「心の実験パッケージ開発委員会」)
1. 今年度の研究概要	
<p>本研究では、児童・生徒の「科学的なものの見方」や「知的探究心」を育むことを目指し、主に心理学的現象（今年度は「認知バイアス」）を題材に、①心理学実験教材の開発（心理学と脳科学をつなぐ体験型教材と教授法の開発）、②開発教材を用いたワークショップの開催（小・中学校や科学館、学会との連携による実践）、の2点に取り組んできた。</p> <p>本研究に至った背景のひとつには、心理学に対する一般的な理解やイメージが、学術としての心理学のあり方と乖離していること、また、教育現場などで、児童・生徒の科学的・批判的思考力を育成すべく効果的な教材やメソッドが不足していること、などがあげられる。発達段階のより早期において、人間を対象とした実証的な研究手法や研究の面白さを伝えることは、子どもたちの「科学的なものの見方」や「探究心」を育み、ひいては心理学の理解にとどまらず、心理学者（科学者）の誕生や心理学研究そのものの発展につながる可能性がある。</p> <p>本研究を遂行するにあたり、これまで継続して日本基礎心理学会「心の実験パッケージ開発委員会」と連携してきた。これにより、心理学から工学、アートサイエンスまで多岐にわたる専門家との共同研究が実現し、独創的かつ相乗的に成果をあげるに至った。実際に開発した教材アプリケーションやワークショップ開催に関わる授業コンテンツなどは、すべてパッケージ（DVD）に収め、公開・配布する（希望者には「使用許諾書」を提出してもらい無料で配布する）。</p> <p>教材をひとつのパッケージに収めることで汎用性を高めると同時に、教材を使用する際のマニュアルなどを WEB 上でも公開することにより、学校や科学館などで「科学教材」として広く活用・展開される可能性がある。子どもたちの「科学教育」に関わるさまざまな場で有効活用されることが期待できる。</p>	
2. 研究の成果	
<p>今年度は、主に、①昨年度、新規に開発した「声の識別」及び「共感覚」のワークショップ実践に関するパッケージ化（マニュアルビデオの作成）、②日本基礎心理学会において、子ども向け心理学実験ワークショップ企画のための「第3回アイディアソン」の開催、③「こころの実験パッケージ開発研究委員会」活動に関する情報更新、の3点となる（成果等の詳細（ビデオやホームページについては次ページ「3. 研究成果の公表実績・予定」を参照のこと）。</p>	

3. 研究成果の公表実績・予定（年月日、方法）

1. 主な学会発表

- 1) 上田祥代・吉田成朗・渡邊淳司・池田まさみ・茅原拓朗・北崎充晃 (2018).
皮質体性感覚野の身体表現理解を促す Face Homunculus Viewer
日本バーチャルリアリティ学会論文誌 24(1), 3-12.
- 2) 渡邊淳司・池田まさみ
シンポジウム2：共感覚的体験：ワークショップと研究の最前線
基礎心理学研究 37(1), 51-51.

2. 主な企画・展示・ワークショップ等

- 1) 「自分の顔を探せ！ / Find Out Your Own Face!」展示
(Open Space 2018 : NTT インターコミュニケーション・センター、2018年6月-2019年3月)
- 2) 第3回「アイディアソン」開催
(日本基礎心理学会第37回大会サテライト、fab café Tokyo 2階、2018年11月30日)
<http://www.kokorojps.org/home>
- 3) 認知バイアスに関するホームページ「錯思コレクション」の開設 (2018年11月30日)
http://www.jumonji-u.ac.jp/sscs/ikeda/cognitive_bias/about.html
- 4) 第2回キャタリストフォーラム 「ネットワークを広げよう！子ども達にかがくの面白さを伝える人“キャタリスト”集まれ！」にて「共感覚」ワークショップ開催
(中部科学技術センター主催、三重、2018年12月22日)